

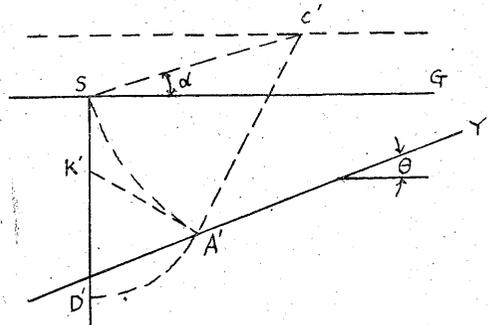
ミラーズ現象の見られる場合の図式
 計算法 一部訂正

金子 徹一 川島 威

月報6巻2号の上記の筆者等の論文の一部に誤りがあるので一部訂正したい。

59頁上より10行目より同頁の最終行までを右欄のように訂正する。

とし図式計算をすることにしよう。前項と同様に A' を屈折点とすると(第4図), A' における臨界面は $\theta + \sin^{-1}(V_a/V_2)$ であるので



第 4 図

$$\sin \alpha = (V_0/V_a) \sin \{ \theta + \sin^{-1}(V_a/V_2) \}$$

の式により α が求められる。この式の中で V_a は A' の点が定まらなければ決定されないが、大体の位置は想定され、したがってその深さでの V_a の値を近似的に決めることができる。 V_a の値が定まれば上式から α が決定され、 C' が定まり波路 SA' が描かれる。もし、この場合、はじめに想定した A' の位置と、あとに決めた A' とが相当大きく相違した場合には、新しく決定された A' から V_a の値を決めて、もう一度同じ操作をすることにより近似は高まる。 SA' の走時 $T(S-A')$ を